

2023 年度実施概要

糸満市立糸満小学校

1. 実施概要

学校名

糸満市立糸満小学校

採択活動名

身近な海に親しもう

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください。

単元名	学年	教科
昔の道具について知ろう	3 学年	総合的な学習
糸満市の環境について考えよう	4 学年	総合的な学習
届けたい！海の声！	5 学年	総合的な学習・国語・図工
キャリア教育の視点からの海洋教育	6 学年	総合的な学習

取り組みの概要

1 海人工房見学【3 学年】

・海人工房を見学し、昔の漁業で使う道具（昔の家の造り）やその歴史について講話していただきました。



サバニに乗ってみました

2 糸満市の環境について考えよう【第 4 学年】

・総合的な学習の時間に糸満市の環境について学習しました。糸満市の行事の一つである「糸満ハーレー」について調べるために糸満海人工房資料館を見学し、ミーカガンやホラ貝、地バーレー体験をさせていただきました。また SDGs の取り組みの一つである「14 海の豊かさを守ろう」にふれ、海洋ゴミ問題がもたらす影響について調べ学習を行い、学習後は海の環境をよくするために自分にできることを考え、発表することができました。【糸満市海洋教育副読本参照】



海人工房への見学

3 届けたい！海の声！【5 年生】

・「環境問題を報告しよう」という国語の単元で報告文を作成する中で知った様々な環境問題。そこから、沖縄の環境は守られているのだろうか？糸満の海にはどれくらいのゴミがあるのだろうか？という子ども達の疑問を基に、調べ学習を行いました。図工で「理想の海」というテーマで絵を描いた後、「現実の海を見つめよう」というテーマで漫湖水鳥湿地センターでの校外学習を行ったり、ビーチクリーン活動に参加したりしました。学習の終盤には、水中カメラマンの上地さんを講師としてお呼びし、「沖縄の海を守るためにわたしたちにできること」というテーマで直接お話をさせていただきました。網



水中カメラマンの上地さんとの交流

に引っ掛かり砂浜に打ち上げられた海ガメの写真、水中に浮かぶビニール袋の写真から実際の沖縄の海を知り、上地さんが行っている環境保全活動のお話を聞くことで、沖縄の海を守るために何ができるだろうか?と話し合うことができました。学習後は、調べて分かった事実をたくさんの人に知ってほしいという思いで、学習発表会ではビーチクリーン活動で集めたゴミを使って楽器やアート、アクセサリーを作り、音楽にのせて「海の声」(調べ学習の成果)を届けました。

4 キャリア教育の視点からの海洋教育【6学年】

・海、川にかかわる職業に視点を絞った総合的な学習の時間で学習活動を行いました。「国際海洋教育センター(GODAC)」や「新糸満造船所」から講師を招いて出前授業を行いました。GODACの世界海洋研究の仕事内容や船内で何か月も過ごす生活などを知ることができました。市内にある国内最大のシンクロリフトを持つ新糸満造船所の仕事内容や設備のすごさに驚いている様子が見られました。この出前授業をきっかけに、児童一人一人が興味のある職業や気になる仕事内容について調べスライドで発表することができました。その結果、児童は幅広い職業を知ることにつながり、海・川にかかわる人に対する知識や興味関心の幅が広がりました。

1. 自己評価

(1) 妥当性

① テーマと目標設定について

- ・3年生(海人工房)、4年生(糸満の海)、5年生(沖縄の海)、6年生(キャリア教育との関連)
- ・各学年の発達段階に応じて、順序立てたテーマ、目標設定で学習を進めることができた。
- ・総合的な学習にて設定したテーマに沿って学習を進めることができた。

② 学習内容の分量(無理のない計画)について

- ・社会見学に組み込むことで、有意義な活動ができた。
- ・校外学習で現場を見学したり、外部機関から講師を招いて講話を行ったりする等、充実した学習を進めることができる学習内容であった。各学年とも学習内容を終えることができた。
- ・今年度から糸満海人工房の見学を3学年で行うことにしたため、昨年度は3、4学年ともに見学を実施した。

③ 内容は各学年に適切な内容であったか

- ・各教科と関連付けながら、学習を進めることができた。
- ・社会「昔の道具と私たちの暮らし」ともタイアップしてできてよかった。(3学年)

(2) 有効性

① 内容は予定通り実施されましたか。

- ・総合的な学習の授業の中で、予定していた活動を進めることができた。

② 協力要請した外部機関との連携体制や協力体制について

- ・協力依頼した団体はとても協力的で、事前打ち合わせにも親身に対応していただいた。
- ・外部機関と事前に連絡を取り合うことで、スムーズに校外学習や講話を行うことができた。

(3) 効率性

① 学習活動の実施期間について

- ・活動自体は天候に左右され、本来ならば地バーレーは外で実施する予定だったが、見学当日は天気が怪しかったため室内での体験となった。(4学年)
- ・予定通り実施することができた。

② 物資・資金の規模は適切だったか。

- ・協力いただいた外部機関との連絡不足もあって、活動後に講師料が発生することがあったため若干困った。
- ・予算が組まれていなかったため、児童から校外学習のバス代や見学科など徴収し実施した。

(4) 持続性

- ① 学習内容や成果物が適切に活用される（見込）がありますか。
 - ・作成したりサイクル楽器、アート等を図書室に掲示し、海洋教育や環境問題に対する関心を高めることができた。（5 学年）

(5) 信頼性

- ① 担当教員は学習内容について十分知識・技能を有しているか。
 - ・海洋担当の教諭はいなかったため、各学年で実施した。
- ② 実施内容について外部公表・発信・共有しているか。
 - ・校内のみの成果発表を行った。

(6) 成果と課題

- ① 成果
 - ・児童は海・川にかかわる人の職業を幅広く知ることにつながり、その職業に対する知識や興味関心の幅が広がった。
 - ・昔の暮らしについての理解が深まった。
 - ・ミーカガンのことについて話を聞き、展示物を見たことで、自分たちの町の方の功績について気が付くことができた。
 - ・海と関連した行事（糸満ハーレー）の体験を通して、地域の行事を大切にする心が芽生えた。
 - ・実際に糸満の海に行き、ビーチクリーン活動を行ったり、沖縄の環境保全に取り組む上地さんの話を直接聞いたりすることができたおかげで、地元の環境を大切にしたいという意欲を高めることができた。
- ② 課題
 - ・実際に見学する機会がなく、実感を伴う体験もなかったことで、現場の感動や働く人のすごさが伝わりにくかった。
 - ・海の道具だけでなく、海に関わるお仕事についても紹介いただけると学習に広がりをもつことができた。
 - ・他機関との連携や学習内容の精選、教科横断的なカリキュラムの編成等課題は多いが、少しずつ課題を解決しながら「海のまち糸満」子ども達の育成を図っていきたい。

【その他コメント】

- ・海洋教育に取り組むことを通して、身近な川や海の生きものや環境に興味を持つことができた。
- ・海洋教育を通して、糸満や沖縄の環境を大切に守り続けたいという思いを高めることができた。

【関係者評価】

- ・海洋教育の副読本は電子データ化し、教育委員会のホームページで閲覧できるようにすると、さらに海洋教育は発信できるのではないかと。
- ・「海人工房」や「糸満ハーレー」、「水産高校」、「造船所」等の地域の教育資源をもっと活用した体験学習を実施してほしい。